

2021 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第3戦  
SUPERBIKE RACE in SUGO

宮城県・スポーツランドSUGO (1周=3.6211km)

2021年5月22日(土) 公式予選・JSB1000レース1 天候: 雨のち濃霧 コース: ウエット  
5月23日(日) 決勝・JSB1000レース2 天候: 曇り時々雨 コース: ドライ

観客動員数: 6,100人(2日間合計)

JSB1000	2	■清成龍一	Race1 予選: 5番手(タイム:1分38秒864) 決勝: 中止 Race2 予選: 5番手(タイム:1分39秒189) 決勝: 3位
ST1000	37	■渡辺一馬	予選: P.P.(タイム:1分30秒623) 決勝: 優勝
ST1000	3	■作本輝介	予選: 8番手(タイム:1分32秒114) 決勝: 3位

渡辺一馬がST1000クラスで勝利を飾る!  
Astemo Honda Dream SI Racing 待望の初優勝!!

Astemo Honda Dream SI Racingのホームコースである宮城県・スポーツランドSUGOで待望の初優勝を達成した。

前週に行われた公開テストは、天気もよくドライコンディションのもと、3人のライダーは、精力的にマシンセットを進めて行った。中でも今シーズンからST1000クラスにスイッチした渡辺一馬の調子はよかった。2番手タイムだったが、アベレージではトップと争える内容だったからだ。しかし、レースウィークは、一転し梅雨入りしたような天候となってしまう。

初日は、雨模様となりウエットコンディション。ここでも渡辺は好調を維持し、3番手タイムを記録。作本輝介は9番手、JSB1000クラスの清成龍一は2番手に付けていた。午後は、濃霧に見舞われ、金曜日は午前中の1本のみとなっていた。

土曜日朝から雨に見舞われるが雨量は少なくセッションが進むにつれ路面は乾いて行く方向だった。レース1が予定されているJSB1000クラスの方が

ST1000クラスより先に公式予選が行われた。さすがに、まだスリックタイヤで走れる状態ではないため、レインタイヤで、まずはアタックしていく。どんよりした曇り空のもと、思いのほか路面は乾かなかったが、走行を重ねて行くとライン上はドライとなってくる。そしてセッション終盤は、スリックタイヤに交換したライダーがタイムを出してくる。清成もタイヤを交換し、計測1周目に自己ベストを更新。さらにアタックして行くが2コーナーで足もとをすくわれてしまい転倒。再スタートするもののタイム更新はできず5番手にとどまった。セカンドタイムでも5番手となり、両レースとも2列目真ん中からスタートすることになっていた。

続いて行われたST1000クラスは、ウエットパッチは所々にあるものの、ほぼドライコンディション。当然スリックタイヤでのタイムアタックとなるが、路面がさらに乾くセッション終盤の勝負になった。セッション序盤に赤旗中断があったが、

渡辺はコース状況を確認しながらアタックするタイミングを探っていく。そしてセッション終盤にアタックに入ると1分31秒台から1分30秒台に突入。1分30秒623をマークしポールポジションを獲得した。作本もタイムを上げ8番手までポジションを上げて予選を終えている。

その後、午後になると金曜日と同様に濃い霧にサーキットは包まれてしまい残念ながらJSB1000クラスのレース1はキャンセルとなってしまった。このため予選順位でハーフポイントがつくことになった。

日曜日は朝方こそ霧が出ていたが朝のウォームアップ走行までに晴れ、予定通りタイムスケジュールは進んでいった。

そして、この日、2レース目となるST1000クラスのレースを迎える。ポールポジションから好スタートを見せた渡辺は、ホールショットを奪い、まずはトップに立つ。作本もスタートを決め5番手に浮上、Astemoカラーの2台がトップグループにつけていた。



6周目には、事前テストから好調だった岡本選手に渡辺はかわされ2番手となるが冷静に、その走りを分析。岡本選手がペースを上げていたが、まだ周回数にはあり、十分射程圏内と判断していた。すると10周目の1コーナーで岡本選手が転倒。渡辺は再びトップに立つと、13周目に1分28秒782のファステストラップをマークし独走。そのまま17周を走り切り、うれしいST1000初優勝を飾ったと同時にチームにとっても初めての優勝となった。

作本も南本選手と一騎打ちとなった3位争いを制し表彰台に上がった。

25周で争われたJSB1000クラスのレース2は、スタート直後に発生したアクシデントでセーフティーカーが入る。清成は、オープニングラップの間に2番手まで浮上していた。そして3周終了時でセーフティーカーがピットに戻るとレースが再開される。このリスタートでダッシュを見せた清成は、1コーナーで中須賀選手をかわしてトップに浮上し、レースをリード。

しかし6周目のホームストレートで中須賀選手にかわされると、そのペースについていけない。後方には、濱原選手と亀井選手が迫り3台での2位争いとなっていく。マシンセットが決まらず厳しい状態の清成は、何とか後続を抑えていたがレース終盤には4番手に後退。それでも最後まであきらめずに前を追っていると、最終ラップに2番手を走っていた亀井選手が転倒。清成は、3位でチェッカーフラッグを受ける結果となった。



RYUSEI

#### 清成 龍一 コメント

「今回も公開テストからチームが本当に頑張ってくれていたんで、レースウィークは、マシンの状態がよくなっていたのですが、雨になってしまい、想定していたセットもいい方向に行かず厳しいSUGOラウンドでした。予選は不安定なコンディションでスリックタイヤに変えて出て行き転倒もありましたし、決勝もうまく走れず終わりました。次戦の鈴鹿までにテストもありますし、マシンセットを立て直して、いい走りをお見せできるように、チームと相談しながら仕上げていきたいですね」



KAZUKI

#### 渡辺 一馬 コメント

「公開テストから、すごく調子がよくてマシンセットも決まっていたので迷わずレースウィークに入ることができました。細かいリクエストにも応えてくれて、最高のマシンを用意してくれたチームのおかげで勝つことができました。本当に感謝という言葉しかありません。チームの地元でもあるSUGOで、チーム初優勝を達成することができて、素直にうれしいです。去年から、このチームに加入させていただきましたが、ライダー3人の中で昨年は、一番成績を残せていなかったのが辛かったですし、悔しい思いをしました。今回勝つことができたのは、起用してくれた伊藤監督を始めチームの皆さん、応援してくれた皆さんに少し恩返しできたかなと思います。この調子で次戦も全力で走りますので、引き続き応援よろしくお願いします」



KAZUKI

#### 作本 輝介 コメント

「レース終盤にトップについて行こうとペースを上げようとしたのですが、うまく上げられず、逆に後ろから突かれてしまう状態でした。何とか3位になりましたが、トップとの差もありましたし悔しいレースになってしまいました。公開テストから思うように走ることができず、レースウィークも雨になり、決勝でドライになったので厳しい部分もありましたが、課題も見えて来ているので、次戦こそテストから、いい流れをつかんでレースで勝負したいですね」



#### チーム監督：伊藤 真一 コメント

「皆さんの応援のおかげでチーム初優勝を達成することができました。本当にありがとうございます。今シーズンは、渡辺がJSB1000からST1000にスイッチし、作本と2人でシリーズチャンピオンを狙うことを一つの目標にしています。チームのみんなの努力が結果になりました。作本もいい走りをしていましたし、この調子でリードしていければいいと思っています。ライバルも速くなってきているので、気を引き締めて次戦に臨みます。JSB1000の方は、今回Astemoさんのご協力もあり、いろいろバージョンアップしたのですが、うまくまとめきれなかったのが苦戦の要因になってしまいました。JSB1000は、7月の鈴鹿まで時間があるので、問題点を精査して次戦こそ勝負したいですね。最後にチームのホームコースということで、多くの皆さんに応援していただき、とても励みになりました。引き続きAstemo Honda Dream SI Racingをよろしく願いいたします」

次戦、第4戦筑波 (JSB1000クラスは開催なし) は、6月19日(土)20日(日)に行われます。